

琉球大学学術リポジトリ

原野に木を植えましょう

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 砂川, 季昭, Sunakawa, Sueaki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19914

原野に木を植えましょう

1 はじめに

経済局林務課編「琉球林業の概要」によりまずと、琉球における林野の現況は第一表のようになっています。但し原表を少し書きかえて転載しました。

この表で、原野の総面積に対する百分率をみてみますと、部落私有共五〇%以上になつております。これは、家畜の飼料及び敷草にするため、採草の場所としての原野が必要だからであろうと思われます。

では、琉球における家畜の生草食量と供給生草量の比較をして、大凡の琉球における原野の必要面積をおさえてみましょう。

2、家畜飼育に必要な生草量

琉球における家畜数は第二表の通りです。(家畜の中でも草で飼育する牛、馬、山羊をあげました。)次に、各家畜の一日一頭の食生草量を次のように推定しました。(昭和一五年の沖繩における調査では牡牛三七・五キログラム、牡馬二四キログラムとなつています)尚幼畜は牡畜の半分におさえます。

牡牛	三六キログラム
幼牛	一八〇
牡馬	三〇〇
幼馬	一五〇
壯山羊	九〇
幼山羊	四・五〇

以上の割で計算しますと、全琉における家畜飼育に必要な一年間の生草量は次のように計算され

ます。

牡牛 三六キログラム×一、〇〇〇頭×三六
五日＝一四四、五四〇、〇〇〇キログラム
幼牛 一八〇×二、〇〇〇頭×三六五日
＝一三、一四〇、〇〇〇

牡馬 三〇〇×一七、〇〇〇頭×三六五日
＝一八六、一五〇、〇〇〇

幼馬 一五〇×三、〇〇〇頭×三六五日
＝一六、四二五、〇〇〇

壯山羊 九〇×五〇、〇〇〇頭×三六五日
＝一六四、二五〇、〇〇〇

幼山羊 四・五〇×四〇、〇〇〇頭×三六五日
＝六五、七〇〇、〇〇〇

合計 五九〇、二〇五、〇〇〇キログラム

3 生草生産量

ここでは、草類だけでなく、実際に家畜の飼料となつている甘蔗の葉あるいは甘藷つるも計算してみたいと思ひます。

甘蔗は、一九五六年に九三〇三ヘクタール栽培されていますが、この面積で計算することにしま

す。昭和一五年の調査では、一四、七八一ヘクタールの面積に対して実際に家畜に供された飼料(葉)は二四八、二九七、六九五キログラムとなつていますが、これは一ヘクタール当り一六、七八八キログラムになります(年間)

故に一年間の葉量は

一六、七八八キログラム×九三〇三ヘクタール＝一五六、二七一、七九四キログラムとなります。

次に、甘蔗は一九五五年に二一、八九九ヘクタール作られています。この面積で計算することになります。

沖繩で調査された資料によりまずと、沖繩百号で年間秋植は一ヘクタール当り一〇、六二二キログラム、夏植は一七、一三八キログラムですから平均一三、八七五キログラムとなります。

故に一年間の甘蔗つるの生産量は、一三、八七五キログラム×二一、八九九ヘクタール＝三〇三、八四八、六二五キログラムとなります。(甘蔗つるの生産量は、沖繩百号が最も少なく、他の品種はもつと多くなつています)

次に原野ですが、面積は官有を除いた民有(市町村有部落私有の合計)の原野面積二〇、四四六ヘクタールで計算してみましょう。尚、一ヘクタール当り年平均して一三、一三〇キログラム生産量があるとします。

故に一年間の生草の生産量は、一三、一三〇キログラム×二〇、四四六ヘクタール＝二六八、四五五、九八〇キログラムとなり、以上の三つを全部合計しますと、七二八、五七六、三九九キログラムとなります。

4、差引計算(原野にどの位植樹できるか)

(一) 現状の場合

2と3の結果から差引一三八、三七一、三九九キログラムの生草が余計に生産されている計算になります。これを原野面積に直しますと、

一三八、三七一、三九九キログラム÷一三、一三〇キログラム＝一〇、五三九ヘクタールとなり、結局現在の民有原野面積の半分は植林しても差支えないこととなります。

(二) 将来の場合

経済局の計画によりまずと、馬、山羊の頭数は

現状の頭数を維持し、牛を約三万頭位に増やす予定のようですが、この計画による家畜飼育に必要な生草量と、生草生産量との差引計算をしてみることになります（途中の計算は省き、計算結果だけ書くことにします。）

家畜飼育に必要な生草量

七九三、八七五、〇〇〇キログラム

生草生産量

七二八、五七六、三九九〇

差引（不足量）

六五、二九八、六〇一〇

さて、現状では原野は余つていよう計算されますが、将来は不足してくる計算になりました。ではこの打開策はないのでしょうか。

ここで、日本の林業試験場でおこなつた試験の結果を参考に検討してみましよう。最初に林業試験場でおこなつた調査結果の二、三をあけてみます。

全然林木がない原野と、林木が若干植栽されている原野との比較において

カラマツ植栽地では 八五%

トゲナシニセアカシヤ植栽地では 七八%

ヤマハンノキ植栽地では 八三%

ヤマハギ植栽地では 七〇%

それぞれ生草量が増加しております。

ヤマハギ植栽地についてももう少し説明を加えますと、〇・一ヘクタール当り一〇〇本植栽しているのですが、生産されるものは生草と樹葉の合計で七〇%も増収しているということです。その他澱粉価において四〇%、可消化蛋白質において、

一〇〇%もその栄養価を高めています。

以上の例で、肥料木（一名肥培木ともいわれる肥料木とは、共生細菌により遊離窒素固定を行ない、地力の増進及び栽培植物の生育促進の機能をもつ根粒木をいいますが、農業に例えていいますと、緑肥作物に相当すると考えられます）を植栽すると生草量が多くなることがおわかりのことと思えます。

即ち、以上の例で、琉球の原野にも肥料木を植えれば生草の生産量が高められるのではないかと考えることができます。

第一表 所有別林野面積（単位はヘクタール）

所有別	面積	立木地	未立木地 (伐採跡地及び災害跡地)	原野
官	有三八、〇九二・三六、六一九		五二	一、四二一
市町村	有五〇、七七六・三八、二一七		七、八五四	四、七〇五
部落	有二、七三三・一、〇九五		一八五	一、四五三
私有	有二七、四九六・一〇、一九四		三、〇一四	一四、二八八

第二表 琉球における家畜数（単位頭）

	総数	壮令	幼令
牛	一三、〇〇〇	一一、〇〇〇	二、〇〇〇
馬	二〇、〇〇〇	一七、〇〇〇	三、〇〇〇
山羊	九〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇

次に、前記の将来の差引計算において、琉球の原野に肥料木を植えて草の生産量を高めた場合の計算をしてみますと次のようになります。（途中の計算は省きます。又原野からの生草増収率を五〇%におさえます）

家畜飼育に必要な生草量

七九三、八七五、〇〇〇キログラム

生草生産量

八六二、八〇四、三八九〇

差引 六八、九二九、三八九〇

この差引量を原野面積に直しますと、約五二五〇ヘクタールになります。結局家畜頭数を増やした将来の場合においても肥料木を植えれば、五、二五〇ヘクタールは他の主要な樹種を植栽できるといふことになりました。

5、おわりに

以上簡単に統計資料を書き並べましたが、実際には豚にも甘藷づるをやつていようが、その分だけ原野も必要になつてくるのではないかと、というようない問題もおこつてきましよう。その他色々問題もあると思ひますが、

（製糖に関する燃料とか屋根用のカヤを育成する原野の必要性等）今まで生草の収量に計算されなかつた路傍の草や宅地内の樹葉が豚に与える甘藷づるに換算されてプラスマイナス零となるでしょうし、又原野に植栽する肥料木、樹木等が私経済的に製糖に必要な燃料屋根用のカヤを上回つてプラスになると考えられます（こういうことを実現するためには合理的な計画性と技術が必要と思ひますが。）

以上のように考えられる問題は色々あります。私が、私は次の事を強調したいと思ひます。

(1) 家畜の飼料あるいは敷草採取用の原野にはすみやかに肥料木を植栽すること、(約一五、二〇〇ヘクタール)

部落有林、私有林はこの項目に属します。

(2) 民有原野の二割近くは経済林として経営しても差支えなく、すみやかに有用な樹木を植栽すること(約五、二五〇ヘクタール)

(七頁へつづく)

第三表

品名	西センチ長	枝数	開花始	成熟期	粒色	粒ヘン色	収量指数	摘	要
青ヒグ	一一、八	二、三四	五月	六月	淡緑	暗かつ色	九六	肥沃地及び遅播に適す	
新豊	一一、〇	二、四四	五月	六月	淡黄	淡かつ色	七九	品質最上	
ナチベ	二九、〇	二、五四	五月	六月	淡黄	淡かつ色	一〇五	樹勢強く瘠地に適す	
低アング	二〇、〇	三、六四	五月	六月	淡黄	かつ色	一〇〇	豊凶の差少なく土質を選ばない	
高アング	二四、五	三、〇四	五月	六月	淡黄白	暗かつ色	九七	前種に似て早播に適す	

第四表 播種期と収量(中央農研所)

種播期	一月	二月	三月
成熟期	五月 一〇日	五月 三〇日	六月 一〇日
取歩	二九	六四	九〇
合歩	六一	六	五
種播期	一月 一〇日	二月 一〇日	三月 一〇日
成熟期	五月 二四日	五月 二九日	六月 七日
取歩	二九	六四	九〇
合歩	六一	六	五
種播期	一月 一〇日	二月 一〇日	三月 一〇日
成熟期	五月 一〇日	五月 三〇日	六月 一〇日
取歩	二九	六四	九〇
合歩	六一	六	五

注、八重山では低アング一月中旬(小寒)、小浜種十二月下旬(冬至)が適期

(二頁からつづき)

4、野菜類、果物、牛乳や卵等なるべく多くとるようにします。このように四つのごとに十分注意して、肥満している時はこれをやせさせ、又栄養が悪い場合にはこれに栄養を与えて、いずれも標準の体重にすることが大切です。標準体重にした後は、次のことに注意して、正しい食餌療法を行ないましょう。

イ、食塩—日本人は日常食塩を必要以上にいたでているのです。食塩を多くとりますと血液の量がふえて、血圧が高くなりますので塩から、塩こぶ、つけ物等は絶体にさけましょう。

ロ、魚肉類、卵、牛乳等あまりよくありません。魚、魚肉類、卵、牛乳等はいたでいた方が望ましい方、よく高血圧の時には、肉類をひかえめにした方がよい等と申しますが、むしろ動物性のたんぱく質、魚肉類、卵、牛乳等いわゆる良質のたんぱく質は血管を強くする為にも必要です。

脂肪分の少ない魚肉類をいたでくようにします。魚類ではなるべく塩分の少ないものが望ましい

のですが沖繩では淡水魚より海のお魚が豊富です。その中でも脂肪の少ないのをえらびます。例えば、アジ、タイ、イカ、エビ、むしかまぼこ等は、脂肪が少なく、イワシ、サケ、サンマ、サバ、魚のかんづめ類等は脂肪が多いものです。ハ、野菜類や果物はこれから春にかけて沖繩では豊富に出回りますので毎日たつぷりいたでくことが大切です。

調理上の注意と致しまして、なるべく塩、味噌、醤油等で煮込まないで、かるくゆでるか又は蒸し、いたでく時に塩をふりかけるようにします。出来ればビタミン類の豊富な新鮮で清潔な、生野菜をサラダにしたいでく理想的です。

ニ、お食事は何時も腹八分、過食は禁物です。ホ、刺げき物(酒、たばこ、からし、こしょう、わさび、濃いお茶やコーヒー等)はさげましょう。

このように高血圧は短期間で簡単に治療の出来る病気ではありませんので気長に療養致しましょう。(尚 弘 子)

べても種子としての生産力が高いようである。これは子実を生産する土地の影響が貯蔵養分の多少の他に化学的成分にも現われるためだと考えられている。よつて採種地は大粒生産の土地を選ぶべきである。一般に粘質が強く湿気はやや多い肥沃な土地に生産された子実が種子として最適とされている。採種圃は普通栽培よりもやや薄播とし、病株とくにモザイク病株を抜き取る。なお大豆は自家授精をするから自然雑種のおそれがほとんどないのは採種上の利点である。採種圃の肥培管理には特に注意すると共に播種から収穫調製に至るまで他種の混入を防ぐよう努める。

一〇、輪作
大豆は連作するとよくないから採種圃は勿論作付畑は輪作するように注意する。四年輪作によつて三七%の増収をしたという成績もある。

(新垣 真保)

(四頁からつづき)
市町村有林のほとんどがこの項目に属します。
(3) 災害跡地及び伐採跡地の未立木地もすみやかに計画を立て、植栽すること、(約一一、〇〇〇ヘクタール)
市町村有、部落有、私有共この項目に属します。これらのことが実現されれば、土地は肥料木によつて肥え、又林木の生産による収入の増加は、皆様方のプラスになるだけでなく琉球全体の経済面のみならず国土保全の上からも非常なプラスになるであろうことを確信いたします。

以上のことは官有を除外してのべましたが、どうぞ計画的な原野の利用、つまり合理的な植樹(肥料木あるいは有用樹種)の実行して下さい。

最後にこの小文をまとめるにあたって、農学科池原先生、畜産学科渡嘉敷すい宝先生から各種資料や有益な御教示を頂きました。付記して感謝の意を表します。(砂川 季昭)